

平成28年1月27日(水)

老球の細道204

恩師の教え

会津バスケットボール協会 室井 富仁

素晴らしいものに出会って感動したり、それに感化されて「よし俺もやってみよう！」と思えるうちは心の老化現象はまだ進んでいない。203号で書いたノーベル医学、生理学賞を受賞した山中伸弥教授の話をもう少し。『山中伸弥先生に、人生とi p s細胞について聞いてみた』(講談社)の中から紹介したい。

ノーベル医学賞を受賞する学者は東京大学や京都大学などの超一流大学医学部出身者が普通だと思っていた。山中先生はその常識を覆し、超一流大学ではない(失礼)医大を卒業し、アメリカの留学先も超エリートが入るようなところではなかった。そのような先生を研究に邁進させ、i p s細胞を発見するような独創性を育んだのは何か。それは、山中先生が行く先々で出会う恩師の教えにあったことを本書は示唆している。

高校時代は大阪教育大学の付属高校で過ごしている。いわゆる進学校である。その高校の先生達から毎日言われ続けていたことは、進学高校の「勉強しろ！」という決まり文句ではなく「スーパーマンになれ！」だったという。スーパーマンになれとはどう意味か。それは勉強ばかりしていないで色んなことのできる人間になれということ。その言葉を素直に聞き入れ、山中先生は生徒会活動や柔道に明け暮れた。そして柔道によるケガの治療がきっかけで医学への道を志し神戸大学医学部へ進学する。

大学では挫折を経験し臨床医師への道を断念する。その後基礎医学の研究に進路を変更し大阪市立大学院に進む。そこで出会った研究室の教授から三つの教えを受ける。一つは、科学の面白さは予想外のことがたくさん起こることである。二つは、予想外のことが起こるから、事前の準備、研究、実験には余念のないように。三つは、先生の言うことを信じてはならない。今日正しくても明日には間違っていることがたくさんある。つまり、先入観を持って物事をみてはいけない。

さらに研究を深めるために山中先生はアメリカへ留学する。サンフランシスコのグラッドストーン研究所である。ここでもまた師と呼べる先生に出会い薫陶を受ける。師曰く、「研究者として成功する秘訣はフォルクスワーゲン“VW”にあり」。フォルクスワーゲンさえ実行すれば君たちは必ず成功する。研究者にとってだけでなく人生にとっても大切なのもフォルクスワーゲンVWである。VWは魔法の言葉だ」と。

VはVisionのVで、長期的な目標を持って研究に取り組みということ。WはWorkhardのWで、何事も一生懸命やれということ。ドイツの車フォルクスワーゲンの「VW」車体ロゴマークのアルファベットに例えて叱咤激励された。

医学の研究もバスケットボールへの取り組みも原則は同じ。山中先生の受けた指導を置き換えると、「スーパーマンのように色々なことができるバランスのとれた人間になろう。バスケットボールは想定外、予想外のことが起こる。勝敗もしかり。しっかり準備し、練習しなければならない。先入観を捨てた斬新な発想で色々な課題に立ち向かおう。失敗、挫折の繰り返しになるだろうが、目先のことに一喜一憂するな。長期的な展望で最後に勝つ者が真の勝者なりを目指そう。そのために何事も一生懸命に、愚直に取り組むのみ」。

私は教え子たちに何を残してきたのだろうか。恥ずかしいかぎりである。